

2023年11月期
第1四半期
決算補足説明資料



ティアンドエス株式会社

(東証グロース 4055)

2023.4.14

T&S

Technology & Service

2023年11月期 第1四半期

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高・営業利益	p. 9
主要取引先動向	p. 10
エンジニアの増員状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
トピックス	p. 14
業績予想進捗率	p. 16
株主還元	p. 18

(今期のテーマ)

成長の継続

1 過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 8億 6百万円	(9.9%増↑	増加額: 72百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 1億 43百万円	(13.3%増↑	増加額: 16百万円)	(同)
経常利益	: 1億 43百万円	(13.2%増↑	増加額: 16百万円)	(同)
四半期純利益	: 1億 0百万円	(13.7%増↑	増加額: 12百万円)	(同)

2 半導体カテゴリーが好調。ソリューションカテゴリーも堅調に推移

- 半導体カテゴリーの売上高は前年同四半期比**26.7%増**。半導体工場に従事する技術者数の増加に伴い増収。
- ソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**10.0%増**。主要取引先からの受託開発案件の受注が引き続き堅調に推移。特に主要取引先からの大型開発案件が続いていることから増収。
- 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高が前年同四半期比**30.9%減**。前期に売上計上された大型案件の反動により当四半期の売上高が減少しているが、前期から継続している外観検査システム開発が順調に推移し、利益幅は増大。

3 業績連動賞与も引当計上

- 1Q時点では通期予想に対して、売上高**21.8%の進捗**。納期が4Qと2Qに偏重するという季節変動トレンドがあり、例年通りの推移となった。
- 営業利益の一部を従業員に還元する施策を当期も継続。1Q分の業績連動賞与12百万円を引当計上するも、営業利益率**17.8%**を達成。(前年同四半期比0.5ポイント増)

決算概要

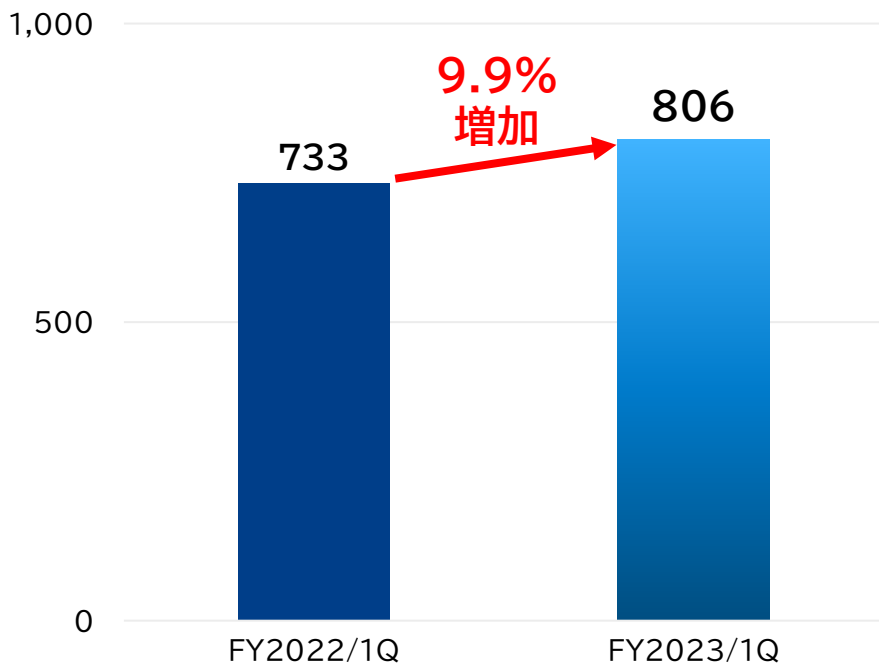
2023年11月期 第1四半期

過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 8億 6百万円	(9.9%増↑	増加額: 72百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 1億 43百万円	(13.3%増↑	増加額: 16百万円)	(同)
経常利益	: 1億 43百万円	(13.2%増↑	増加額: 16百万円)	(同)
四半期純利益	: 1億 0百万円	(13.7%増↑	増加額: 12百万円)	(同)

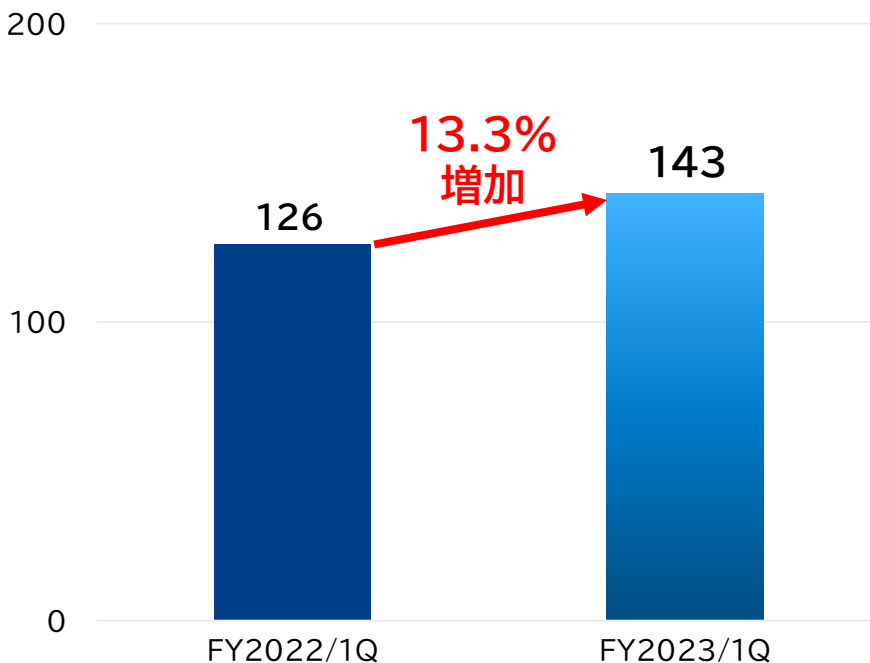
(単位:百万円)

売上高



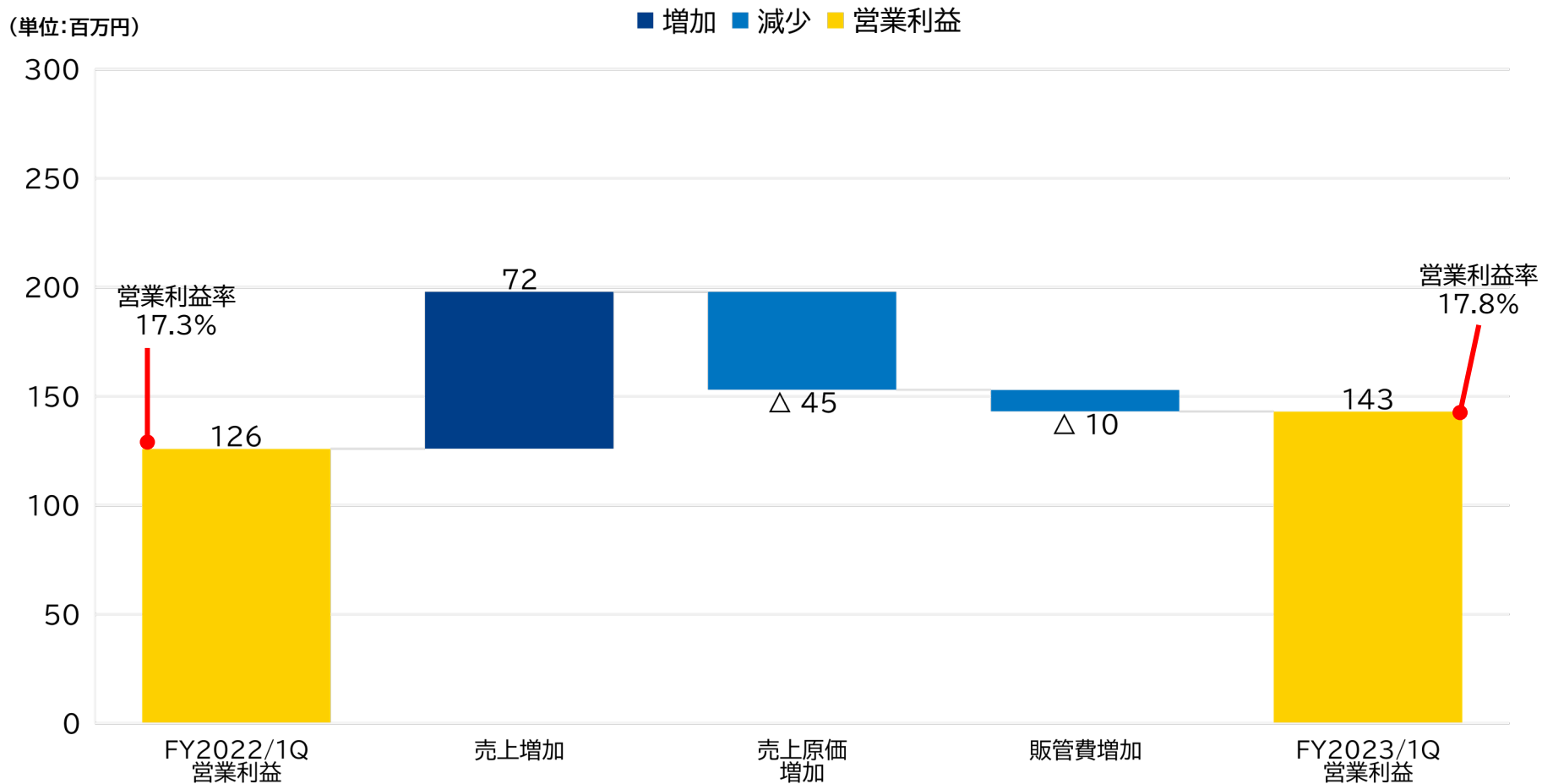
(単位:百万円)

営業利益



営業利益の状況(FY2023/1Q)

16百万円の**営業利益増** (前年同四半期比)



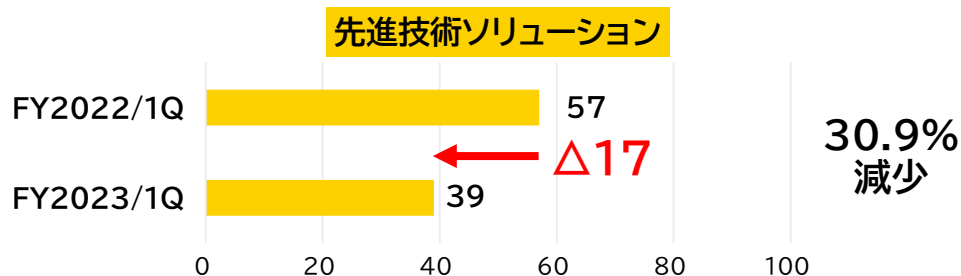
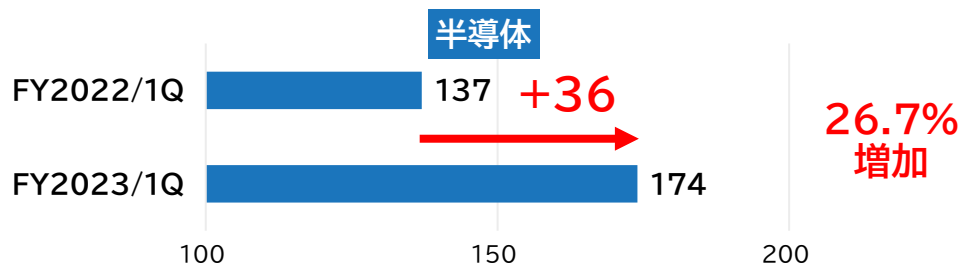
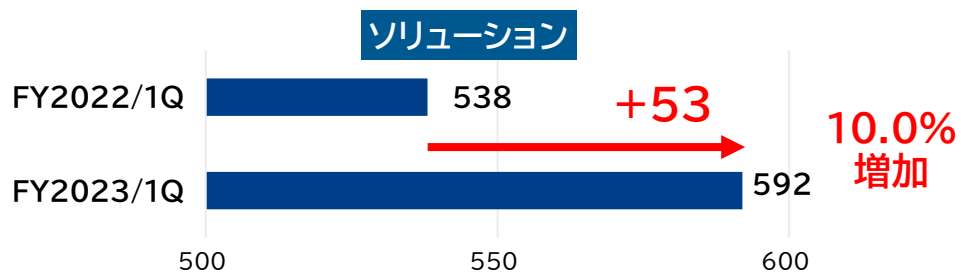
カテゴリー別売上高(FY2023/1Q)

ソリューションは**10.0%増加**で堅調に推移
(前年同四半期比)

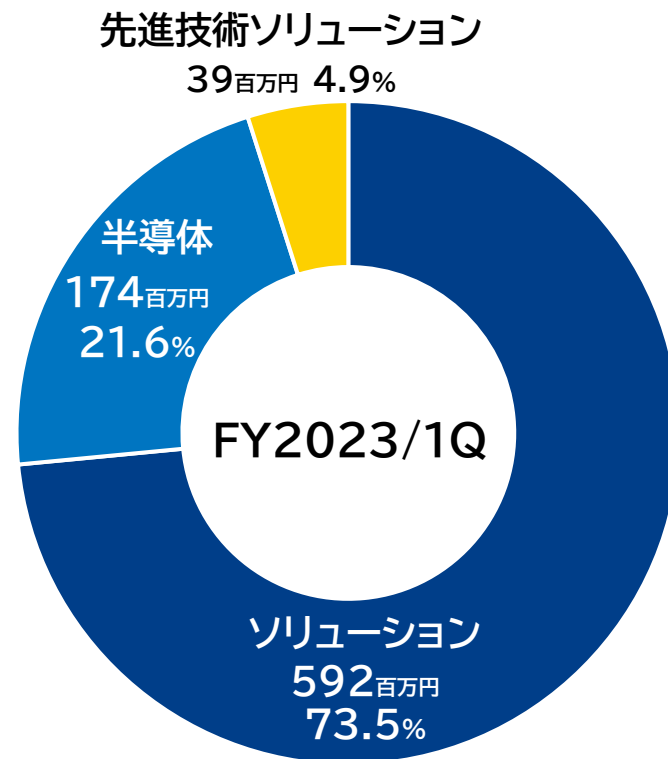
半導体は**26.7%増加**で好調を継続
(前年同四半期比)

先進技術ソリューションは前期の大型案件の反動で**30.9%減少**
(前年同四半期比)

売上高(カテゴリー別) (単位:百万円)



売上比率(カテゴリー別)



(注)当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

取引先別売上高(FY2023/1Q)

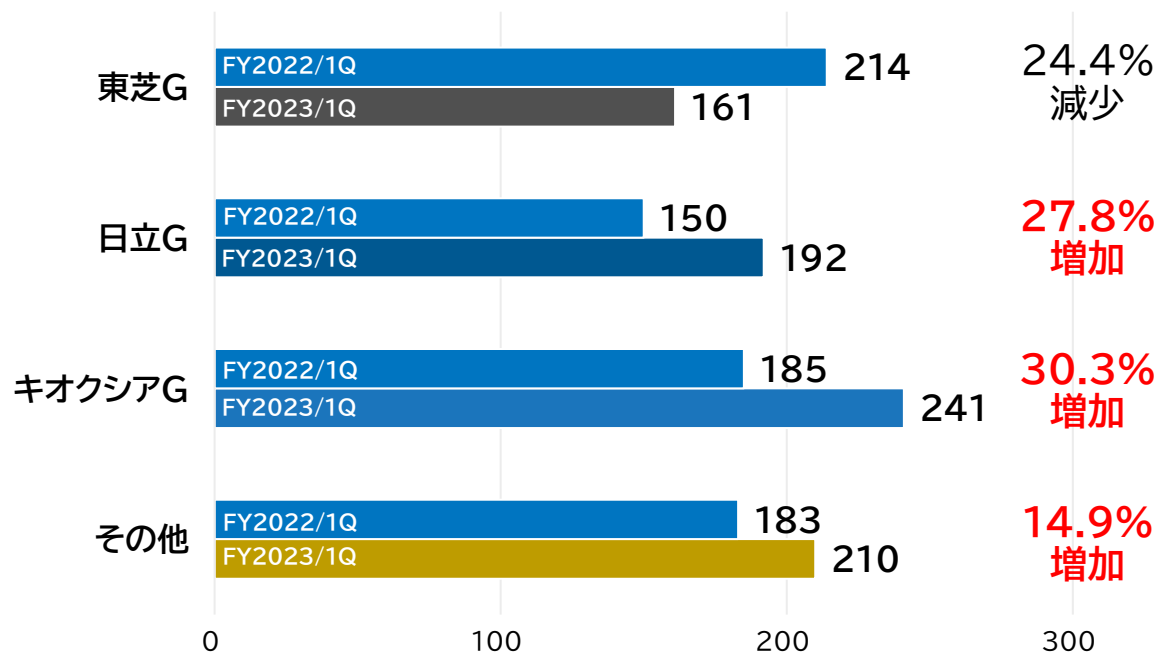
東芝G、日立G、キオクシアG

主要取引先は安定して推移

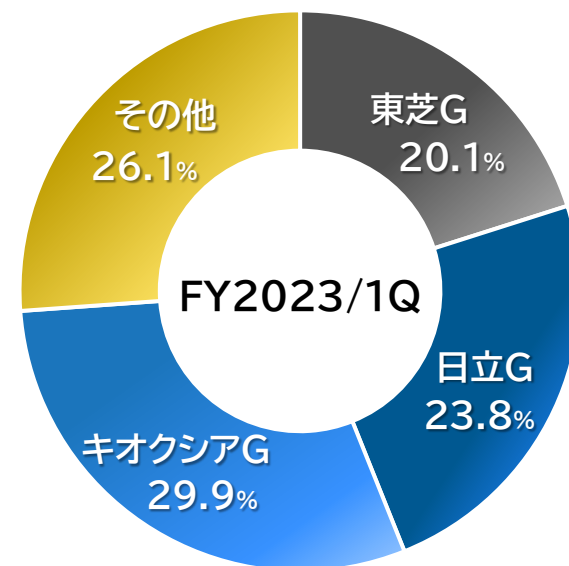
日立Gの売上が好調

(27.8%増加(前年同四半期比) 構成比23.8%)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



(※)東芝Gの再編に伴い、前期第3四半期よりキオクシアエンジニアリング(株)(旧:中部東芝エンジニアリング(株))に対する売上高をキオクシアGとして集計しています。これを考慮すると、東芝Gに対する売上高は実質4.7%の増加になります。

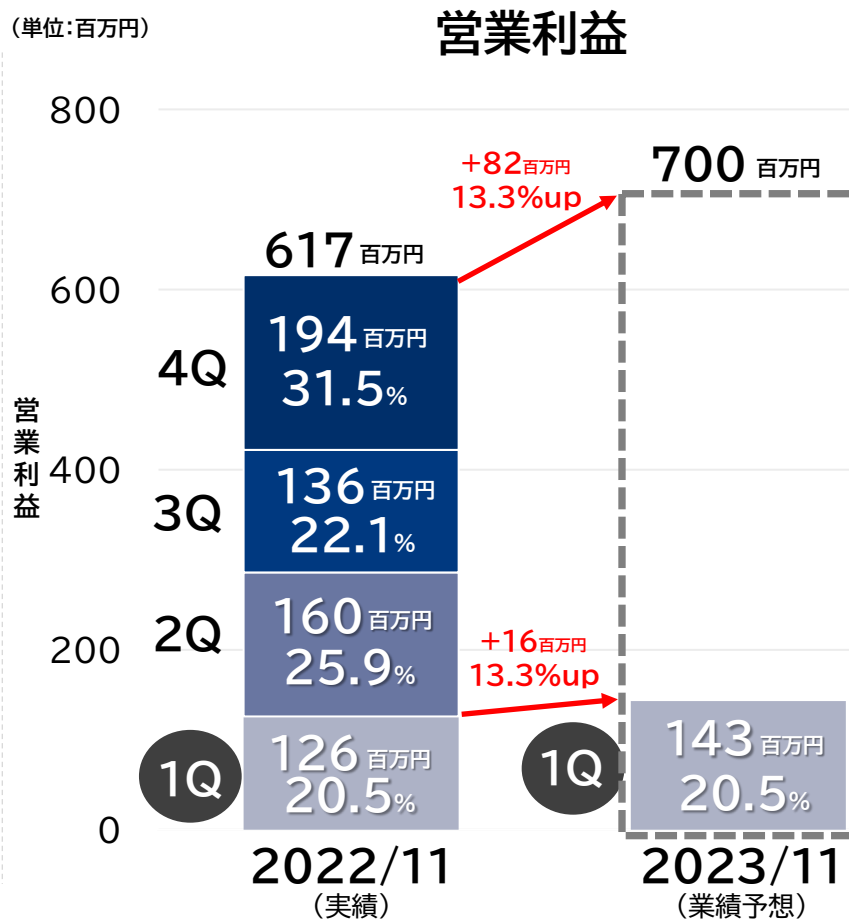
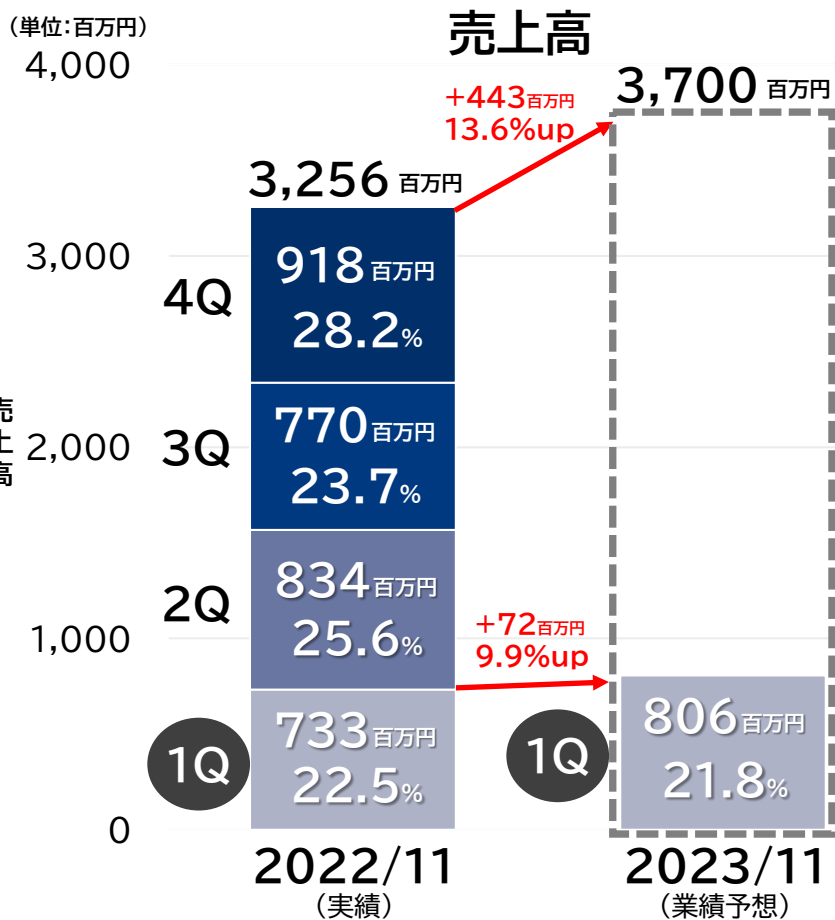
四半期別売上高・営業利益(FY2023/1Q)

1Q累計売上高：8億6百万円

増加額：**+72百万円 9.9%増加** (前年同四半期比)

1Q累計営業利益：1億43百万円

増加額：**+16百万円 13.3%増加** (前年同四半期比)



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

(全体)主要取引先動向

(2023年4月14日現在)

当社を取り巻く重電、インフラ関連の事業環境は引き続き好調。生産調整局面に入った半導体メーカー各社は、正常化に向けて動き出すも現時点ではその途上か。新型コロナウイルスの影響は一段落し、中長期的な投資意欲は旺盛だが、地政学的リスクへの対応が依然として課題となっています。

東芝G

非上場化へ向けた取り組みなどガバナンス面での変革の動きはみられるが、エネルギーシステム、インフラ関連の売上が伸長しており、ビジネス環境への影響はないか。なかでも、当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントが好調であることは、当社にとって追い風とみています。

日立G

デジタルシステム&サービス、クリーンエネルギー&モビリティを中心に受注が堅調。当社業務に関連する社会インフラ系を重視する戦略に移行しており、関連する設備投資もコロナ禍における抑制傾向から一転、当社への引き合いも大きく増加中です。

キオクシアG

PC・スマートフォン向け等、旺盛だった半導体需要の反動により、足元では3割の生産調整。当社の関与する工場システムの保守運用は操業度との関連は薄いですが、コスト協力等による影響は生じる見込み。ただし、フラッシュメモリ市場の中長期的なトレンドは継続して拡大傾向にあり、国から多額の助成金が交付されるなど新規の設備投資意欲は旺盛で、当社にとってはシステム開発の受注拡大が期待されます。

その他

AIアルゴリズム開発の研究開発の分野において、自動車関連メーカー、精密機械メーカー、通信インフラ企業などの研究投資意欲が旺盛。コロナ禍の中でDX化、省人化の流れが加速しており、当社への引き合いが拡大しています。

(各社の公表資料、及び新聞報道より作成)

エンジニア増強に向け始動、BP^(※1)戦力も拡充

社員エンジニア 増員率

2.8%

(前期末比)

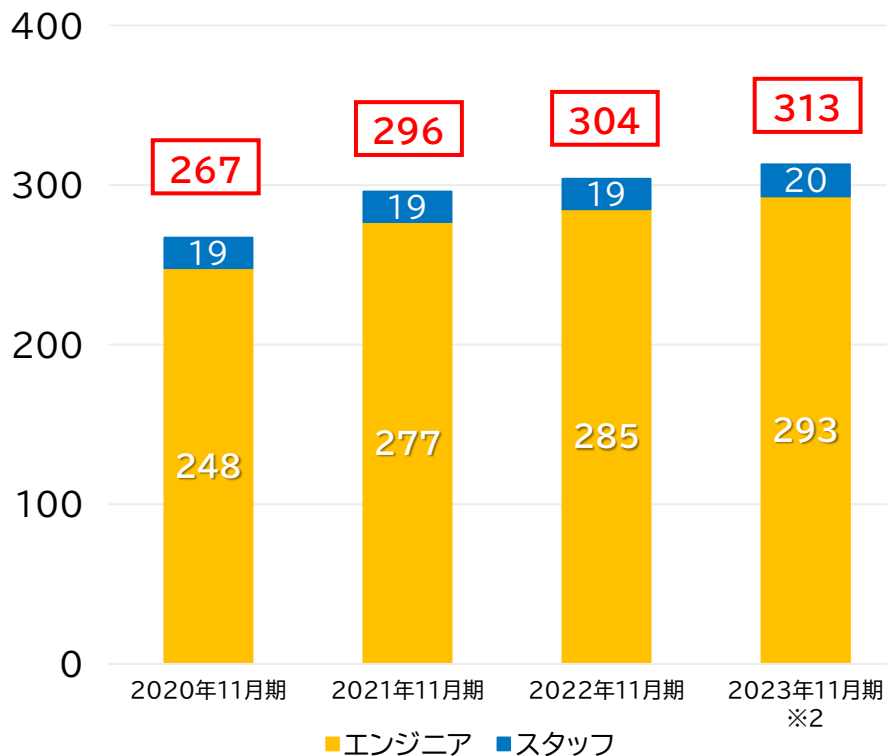
BP発注件数 増加率

5.9%

(前期末比)

従業員数 推移

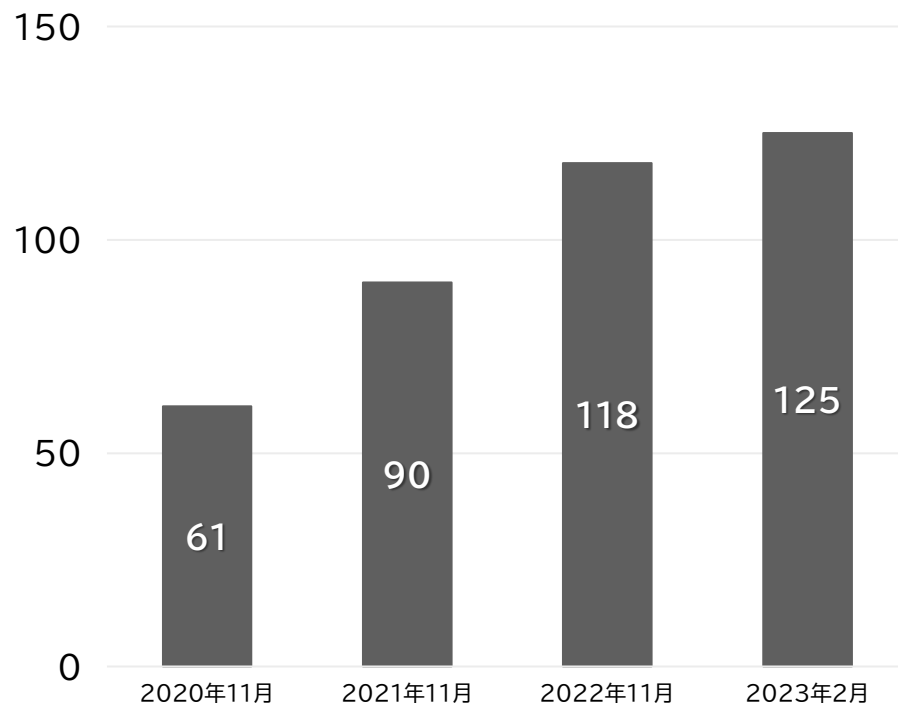
(単位:人数)



※2

BP発注件数 推移

(単位:件数)



※1 BP…ビジネスパートナー。業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

※2 4/14時点

損益計算書(FY2023/1Q)

損益計算書(FY2023/1Q)

単位:千円	FY2022/1Q	FY2023/1Q	増減額	増減率
売上高	733,145	806,016	72,871	9.9%
売上原価	514,309	559,687※	45,378	8.8%
売上総利益	218,835	246,328	27,493	12.6%
販売費及び一般管理費	92,232	102,910※	10,677	11.6%
営業利益	126,602	143,418	16,815	13.3%
(営業利益率)	(17.3%)	(17.8%)		
経常利益	126,552	143,246	16,693	13.2%
(経常利益率)	(17.3%)	(17.8%)		
四半期純利益	88,767	100,916	12,149	13.7%
(四半期純利益率)	(12.1%)	(12.5%)		

※好業績による従業員への業績連動賞与12,000千円を含んでおります。

貸借対照表(FY2023/1Q)

単位:千円	FY2022	FY2023/1Q	増減
流動資産	2,110,767	2,018,920	△91,846
固定資産	170,732	145,911	△24,821
資産合計	2,281,500	2,164,831	△116,668
流動負債	498,233	323,321	△174,911
固定負債	49,763	51,312	1,549
負債合計	547,996	374,633	△173,362
株主資本合計	1,733,503	1,790,197	56,694
純資産合計	1,733,503	1,790,197	56,694
負債純資産合計	2,281,500	2,164,831	△116,668

トピックス

長崎県諫早市に6拠点目の事業所を開設

2023年4月に長崎県諫早市に事業所を開設しました。

売上・利益↑

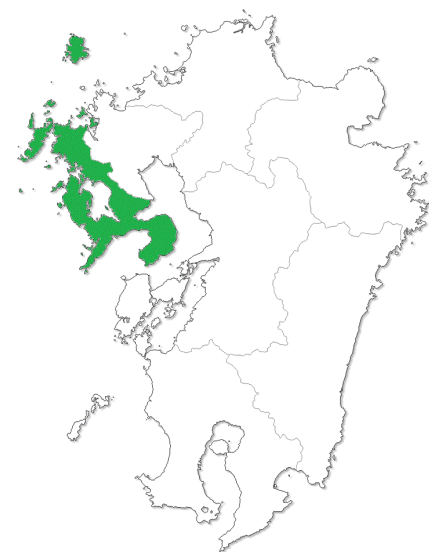
- ▶ 受注が伸長しているソニーグループとの取引の中長期的な拡大を目指す

SDGs貢献↑

- ▶ 地方在住の障害者雇用にも積極的に取り組む

事業所の概要

- | | |
|---------|---------------------|
| (1) 名称 | ： ティアンドエス株式会社 長崎事業所 |
| (2) 所在地 | ： 長崎県諫早市永昌町 12-1 |
| (3) 開設日 | ： 2023年4月1日 |



(出所) CraftMAP白地図をもとに作成

業績予想進捗率

2023年11月期1Q現在

通期予想に対し順調に推移

(通期業績予想の変更なし)

単位:百万円	2022年11月期 (実績)	2023年11月期 (予想)	2023年11月期 第1四半期(実績)	進捗率
売上高	3,256	3,700	806	21.8%
営業利益	617	700	143	20.5%
経常利益	626	703	143	20.4%
当期(四半期)純利益	440	495	100	20.4%

■ 全社

前年同四半期比9.9%増。東芝G、日立G、キオクシアGといった主力顧客からの開発案件が堅調。顧客の納期や、技術者派遣の稼働日数の関係から、例年2Qや4Qに売上高が偏重する季節変動トレンドがあり、当1Qも例年トレンドどおりの進捗となった。
技術者リソースを補うため、BPの利用を増加させているが、好採算案件へのシフトも奏功し、粗利率は30.6%を確保。業績連動賞与の引当12百万円を吸収し、営業利益は143百万円と前年同期比13.3%増。営業利益率は17.8%。

■ ソリューション

前年同期比10.0%増。主要取引先からの大型システム開発案件が続いており増収。

■ 半導体

前年同期比26.7%増。半導体工場からの経常的な増員要請のほか、契約条件の見直しも随時行っており、増収増益に寄与している。

■ 先進技術
ソリューション

前年同期比30.9%減。前期首にあった仕掛中の大型案件が前年同期に売上計上された反動で、当四半期の売上高が減少しているが、前期から継続している外観検査システム開発が順調に推移し、利益幅は増大。

株主還元

2023年11月期の配当性向も10%を目標とします

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2023年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり6円55銭(55銭増配)を予想しております。

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	自己資本利益率 (ROE)
2022年11月期 (実績)	6円00銭	10.3%	27.3%
2023年11月期 (予想)	6円55銭	10.0%	25.3%

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。